

映畫鑑賞

赤谷慶子

今年の流行語とも成れる「国宝みた?」。吾はこの流れに抗はず友人と鑑賞しき。予約はネットにて、前払ひ。東宝シネマズの公式電網は二日前の受付のみ可能にて、難儀せり。

最後の映畫鑑賞は十五年前、氣功仲間の友人と二〇十一年にクリント・イーストウッド監督、ステイブ・スピルバーグ制作総指揮の「ヒヤアフター」と題する映畫なり。東南アジアの津波により臨死を體驗せる女性ジャーナリスト、マット・デイモン演ずる靈能者と少年三名死後の世界にとりつかれ、その人間の苦悩と解放を描きたる映畫なり。この映畫の津波場面凄まじく、をりしも三月に東日本大地震の巨大津波ニュースの全国に流れたる背景ありて、「ヒヤアフター」は瞬く間に上映禁止となれり。

今日のニュースによらば国内映畫興行収入は過去最高の2,744億円にて、一位はアニメ「鬼滅の刃」の391.4億円、「国宝」はこれに次ぐ195.5億円にて前年比33%増となりし事報道せられき。

映畫「国宝」の原作は吉田修一による朝日新聞の連載小説にて一年にわたり掲載せられたり。監督は李相日、撮影はカンヌ国際映畫祭のパルムドール賞のソフィアン・エル・ファニ。任侠の家に生れて歌舞伎の花となりし主人公が人間国宝となるまでの五十年の人生を描きたるものなり。原作は上下巻より成る長編にて、三時間の映畫に詰むるはさぞや苦勞の賜物なりけむと察せられ、映畫はほぼ上巻を據りたるは宜なり。書籍となりたる小説も読みたりき。内容は書籍の方興ありけれど、映像の素晴らしさと二人の主演者の舞は瞠目するに足る。二人の俳優は一年半かけ踊りの練習に励みたりと多々説明あり。専門家によりては、批判は諸説あらむとも、歌舞伎役者にもあらぬ若き俳優の踊りは稱賛に値すと吾は覺ゆ。映像の角度、カメラの動きは歌舞伎そのものの舞台を従來の伝統とは異質なる様に描き出したり。

然れども、三時間の映畫鑑賞終はりし頃、腰痛は避けられず、難儀なることよ。

(令和八年一月二十九日受附)